

全国・県学習状況調査における生徒の結果分析（3年）

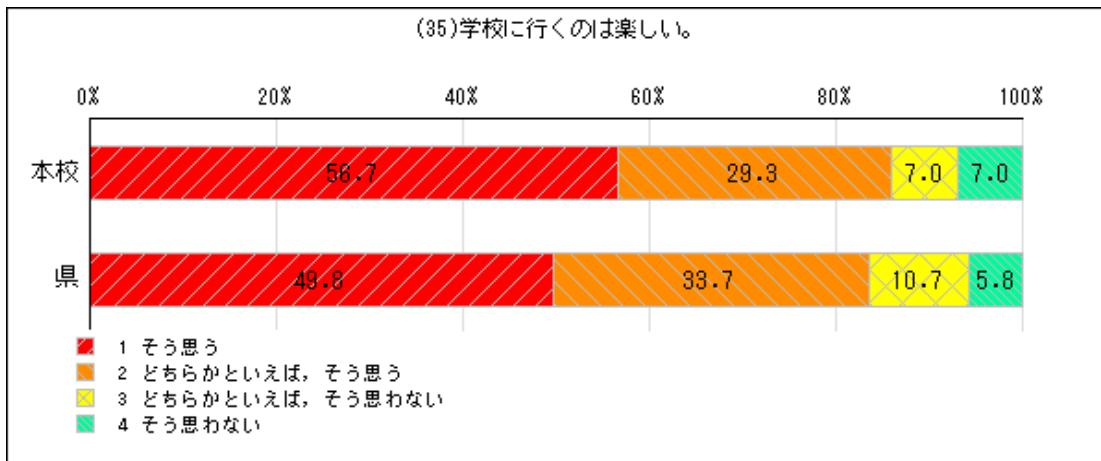
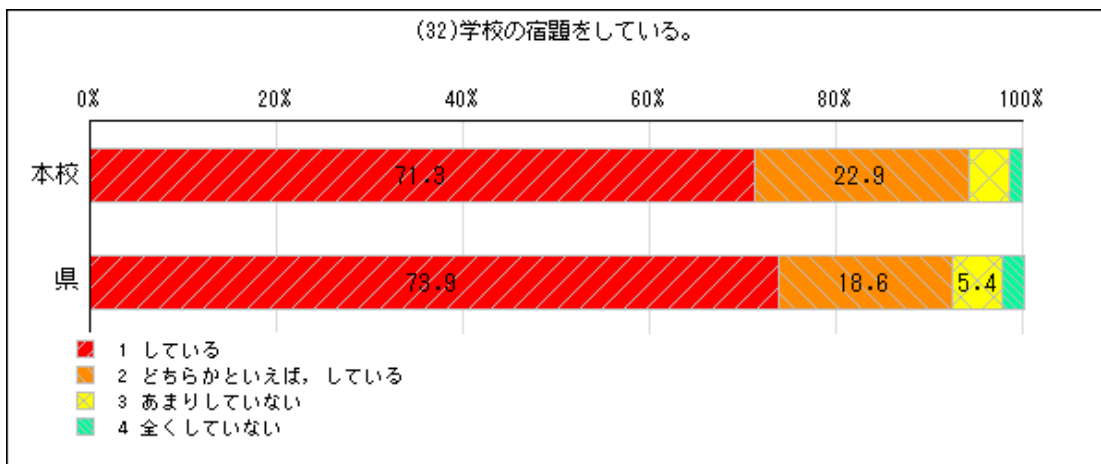
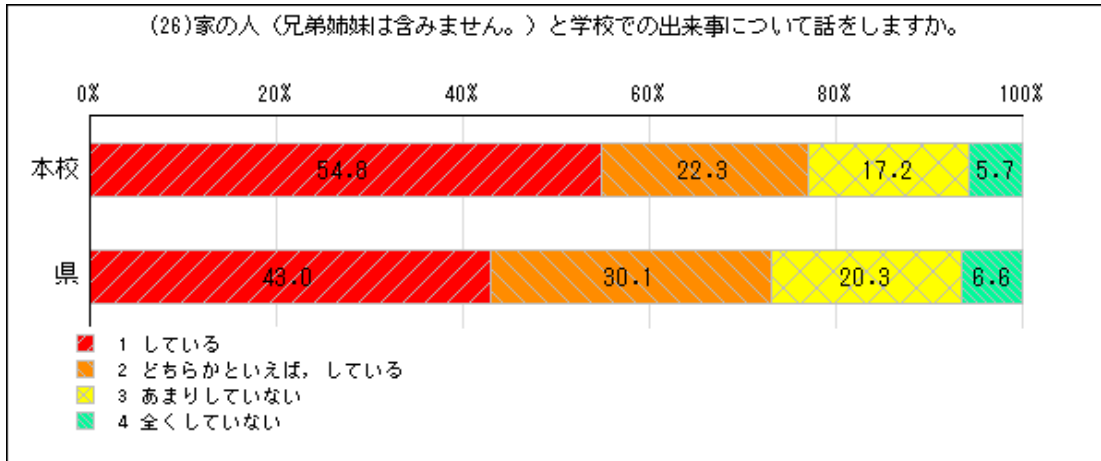
今年度の分析

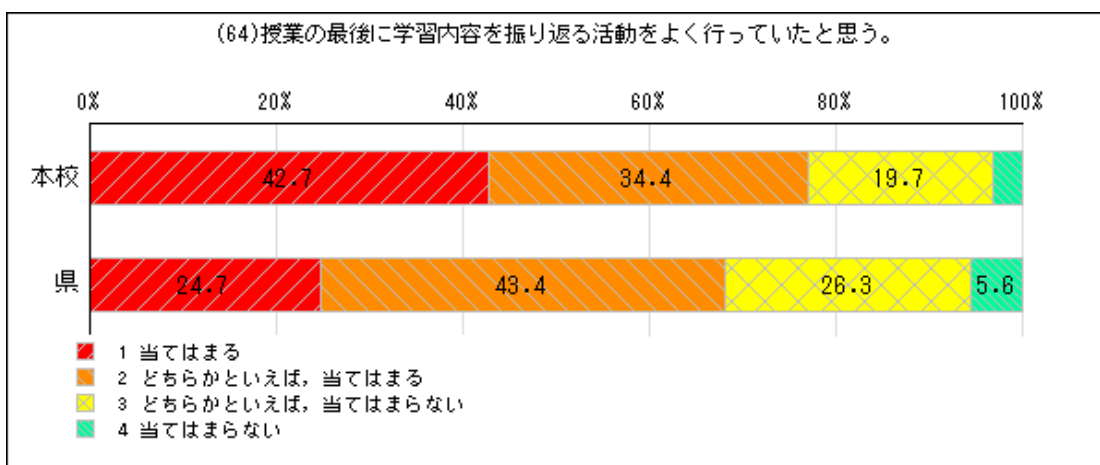
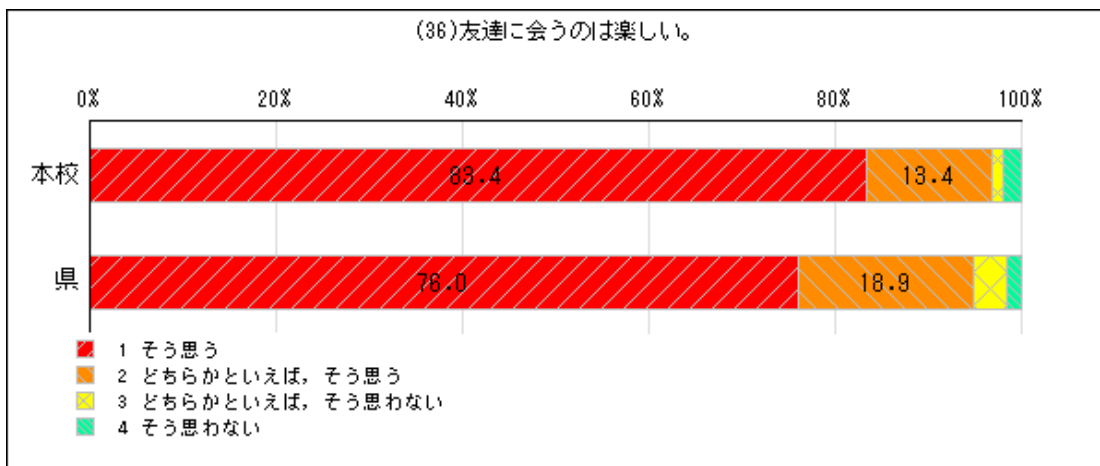
全体の概要		
国語	全体の正答率は県平均をやや下回っている。観点別では、「話す・聞く」、「書く」、「知識・理解・技能」は県平均をやや下回っており、「読む」は県平均とほぼ同じである。	
分析結果・課題把握		改善に向けた具体的取り組み事項
話す・聞く	スピーチの構成の仕方を読み取れていない。事実と考えの区別やそれぞれの組み立て方の理解が必要である。	スピーチ原稿を作る際に、事実と考えを意図的に分けて構成させる。また、根拠にもとずいて考えを述べさせる場面を増やす。
書く	A問題は県平均と同程度だが、B問題は大きく下回っている設問がある。	複数の資料を扱って複数の条件を満たして記述する学習を仕組む。
読む	A問題は県平均と同程度だが、B問題は大きく下回っている設問がある。	設問中の複数の条件に従って必要な情報を丁寧に組み立てる学習の場をつくる。
知識・理解・技能	全体的には県平均と同程度だが、設問によっては大きく下回っているものもある。	日常的に語彙の習得を図る一方で、生活や経験に関連づけて理解する視点を持たせる。

全体の概要		
数学	全体の正答率は県平均とほぼ同じである。しかし、到達度分布をみると「要努力」の生徒の割合が高くなっている。 内容・領域別に比較したときは、「数と式」、「図形」、「関数」は県平均とほぼ同じである。一方「資料の活用」は県平均よりやや低くなっている。	
分析結果・課題把握		改善に向けた具体的取り組み事項
知識・理解	県平均とほぼ同じ。特に図形や資料の活用に関する問題の正答率が低かった。	授業の中で、数学用語や数学的な表現を使って説明する場面を多くし、内容理解や定着を図る。
技能	県平均とほぼ同じ。基本的な四則の計算、かっこをふくむ計算、一次方程式の計算技能は身につけている。しかし文字式の表し方を苦手とする生徒の割合が多くなっている。	本校取り組みのすきるアップの実施により、計算練習を多く行うことができた。さらに定着を図るために課題や小テストなどを利用して繰り返し学習できるようにする。
考え方	県平均とほぼ同じ。視覚的にとらえられる（図形の移動）の問題の正答率が高いが、資料の活用や度数分布多角形の見方の問題の正答率が低くなっている。	個人の考えをグループで共有する機会を増やす。また、思考力を要する問題に対して苦手意識を持つ生徒が多いので、課題提示の仕方を工夫して問題解決ができる手立てを図りたい。

全国・県学習状況調査における生徒意識調査の結果分析（3年）

【 数値が特に高かった項目 】

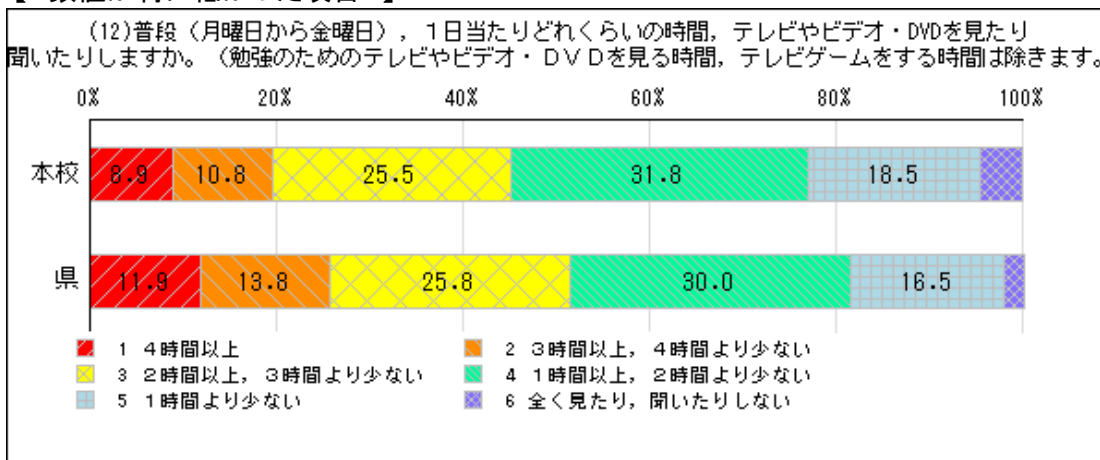




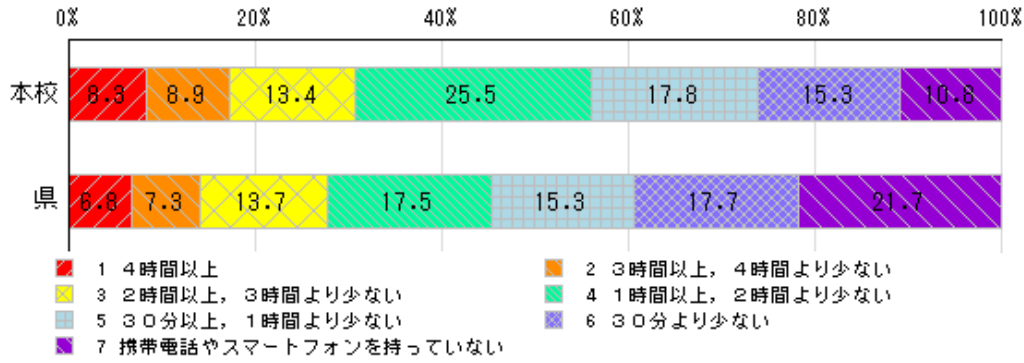
分析と改善に向けた具体的取り組み事項

家の人とのコミュニケーションをしっかりと取り、学校生活は、楽しく満足している様子が見えてくる。宿題をやらなくてはならないという意識は高く、しっかりと取り組んでいるという自負はある。学習において、学習内容を振り返る活動を意識して行っている様子を見ることが出来る。これは、昨年度からの校内研究の取り組みが、影響していることも考えられる。

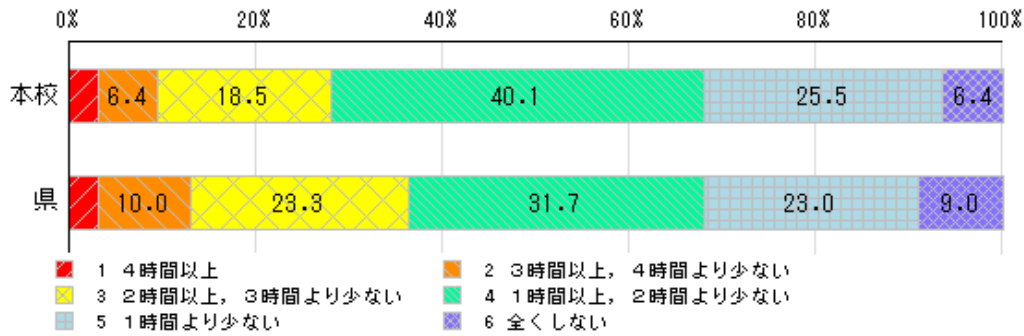
【 数値が特に低かった項目 】



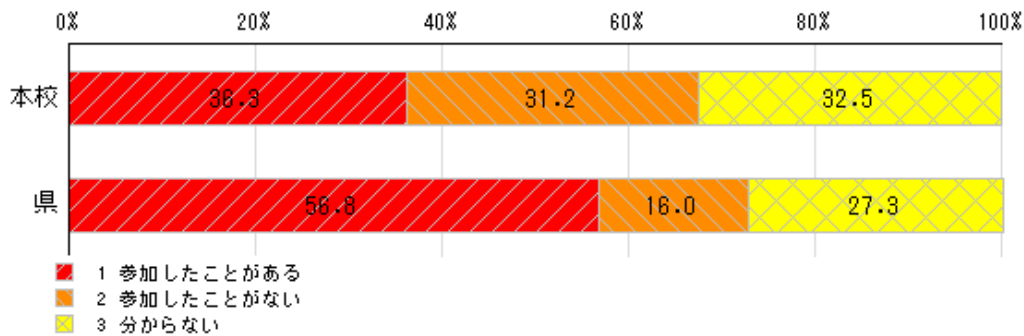
(14) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除きます。）



(16) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。）



(45) 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。



分析と改善に向けた具体的取り組み事項

昨年度同様、一日あたりのテレビ、ビデオ、DVD、携帯電話、メール、インターネットの時間が多く、学習時間に大きく影響していることは否めない。（昨年度より多少改善されている部分はあるが）地域社会との関わりはありそうに見えるが、ボランティア活動への参加実態については、以外に低かった。夏休みの機会をとらえながら改善されるものと思われる。